

普天間飛行場周辺測定結果

1 概要

普天間飛行場周辺における各測定局の配置状況を図 F 1 に、また測定結果の概要を表 F 1 に示す。

各測定局における環境基準の類型指定状況は、8 局中、類型 が 6 局、類型 が 2 局となっており、全ての局がオンラインで測定本部へ接続されている。

2 測定結果

(1) WECPNLについて

測定期間内におけるWECPNLを表 F 1 及び図 F 2 に示す。

全ての測定局で前年度の値を下回った。

また、新城局で環境基準が達成されたことにより、環境基準値を超過した測定局の割合は、25.0% (8 局中 2 局) で前年度33.3% (9 局中 3 局) より減少した。

(2) 1日あたりの騒音発生回数について

測定期間内における1日あたりの騒音発生回数を表 F 1 及び図 F 3 に示す。

全ての測定局で前年度の値を大幅に下回った。

(3) 月別のWECPNLと1日あたりの騒音発生回数について

月別WECPNLと1日あたりの騒音発生回数を図 F 4 ~ 4 - 2 に示す。

上大謝名局では、ほぼ毎月、環境基準値を超過した。

月別の1日あたりの騒音発生回数は、他局に比べて、上大謝名局と新城局で多く、最大値は、4月の上大謝名局で、99.4回/日であった。

また、9月以降は、それ以前と比較して、騒音発生回数が減少しているが、これは、沖縄国際大学へのヘリ墜落事故や、イラク派兵などが影響したものと考えられる。

(4) 月別の平均ピークレベルと最大ピークレベルについて

月別の平均ピークレベル(dB)と最大ピークレベル(dB)の状況を図 F 5 ~ 5 - 2 に示す。

平均ピークレベルは、滑走路延長直下に位置している上大謝名局において、ほぼ毎月、80dBを超えていた。

最大ピークレベルは、野嵩局、上大謝名局及び新城局で、100dB以上を示す月があり、最大値は、野嵩局の115.8dBであった。

(5) 曜日別の騒音発生回数について

曜日別の平均騒音発生回数を表 F 2 及び図 F 6 ~ 6 - 2 に示す。

火曜日、水曜日及び木曜日に多く、土曜日及び日曜日の発生回数は少なかった。

(6) 時間帯別の月平均騒音発生回数について

0時から7時(N1)、7時から19時(N2)、19時から22時(N3)、22時から24時(N4)の各時間帯における月平均騒音発生回数(回/月)及び航空機騒音規制措置(日米合同委員会合意事項:H8.3.28)で飛行が制限されている22時から翌朝6時の間の騒音発生回数(回/月)を表 F 3 に示す。

月平均騒音発生回数は、7時から19時の間で全体の約80%を占めるが、0時から7時、22時から24時といった深夜早朝にも観測された。

航空機騒音規制措置で飛行が制限されている22時から翌朝6時の間の騒音発生回数は、前年度と比較して、全ての測定局で横ばい若しくは減少した。

(7) 環境基準値の超過日数について

測定日数と環境基準値を超過した日数を表 F 4 及び図 F 7 に示す。

環境基準値を超過した割合の高い測定局は、上大謝名局で356日中227日(63.8%)、野嵩局で359日中123日(34.3%)、新城局で359日中75日(20.9%)の順であった。

(8) WECPNLと1日あたりの騒音発生回数の年度推移について

WECPNLと平均騒音発生回数(回/日)の推移を図 F 8 ~ 8 - 2 に示す。

WECPNLは、ほぼ横ばいで推移しており、騒音発生回数については、宜野湾局で減少傾向にあるものの、全体としては、ほぼ横ばいで推移している。

(9) 航空機騒音規制措置合意前後の航空機騒音発生状況について

平成7年度から継続して測定している野嵩局、平成9年度に設置した上大謝名局及び新城局について、WECPNLと22時から翌朝7時までの騒音発生回数(回/月)の年度推移を表 F 5 及び図 F 9 ~ 9 - 2 に示す。

WECPNLは、ほぼ横ばいで推移している。

22時から翌朝7時の間までの騒音発生回数は、野嵩局においては平成8年度に大幅に減少した後は、緩やかな減少傾向を示している。

上大謝名局においても平成10年度に減少したが、その後、平成11年度から増加に転じ、近年は、再び減少傾向にある。

また、新城局においては、昨年度まで増加していたが、今年度は減少した。

3 まとめ

- (1) 環境基準値を超過した測定局の割合は、25.0%（8測定局中2測定局）で、前年度33.3%（9測定局中3測定局）より減少した。
- (2) WECPNLは、全ての測定局で前年度より減少したが、上大謝名局で78.7と、依然として大幅に環境基準値を超過していた。
- (3) 1日あたりの騒音発生回数は、全ての測定局で前年度を大幅に下回った。
また、曜日別では、平日に騒音の発生が多く、火曜日、水曜日及び木曜日に集中していた。
- (4) 平成7年度から継続して測定している測定局について、WECPNLと夜間 - 早朝（22時～翌朝7時）の騒音発生回数の年度推移をみると、WECPNLは、ほぼ横ばいで推移している。
また、騒音発生回数については、野嵩局で、平成8年度以降、緩やかな減少傾向を示している。
上大謝名局においても平成10年度に減少したが、その後、平成11年度から増加に転じ、近年は、再び減少傾向にある。
また、新城局では、昨年度まで増加していたが、今年度は減少した。
- (5) 9月以降の騒音発生回数などが、それ以前と比較して、減少しているのは、沖縄国際大学へのヘリ墜落事故や、イラク派兵などが影響したものと考えられる。
- (6) 普天間飛行場周辺における平成16年度の航空機騒音測定結果は、WECPNLや騒音発生回数などで前年度を下回った測定局があるものの、その値は、依然として高く、普天間飛行場から発生する航空機騒音は周辺地域住民の生活環境に対し大きな影響を与えている。